

中期経営計画(2017~2019年度)

■ 目指すべき姿 ~創業125周年(2021年度)に向けて

グローバルな臨海部ナンバーワン・コントラクター
(売上高5,000億円超をコンスタントに達成できる企業グループ)

基本方針 臨海部と海外に強みを持つ特徴あるゼネラル・コントラクターとして緩やかな事業拡大を目指す

基本戦略

1. 営業力・現場力・技術力の強化 ~請負を極める

- 技術に裏打ちされた営業力、現場力、コスト競争力の強化
- 自前のコア技術の開発・コア人材の育成+外部技術・人材の連携・活用
- 安全・品質に関する五洋スタンダードのグローバル展開
- 将来を見据えた事業展開: 洋上風力建設、建設発土・浚渫土リサイクル等

2. 建設生産システム改革による生産性の向上 ~労働人口減少、高齢化への対応

- 生産性向上技術の開発と現場への積極的導入
- 省力化・工業化・ロボット化、ICT・AI活用による情報化施工、BIM/CIMの推進
- 国内・海外、土木・建築の連携による全社を挙げた取り組み

3. 担い手の確保・育成、働き方改革の推進 ~生産性向上により実現

- 週休二日(4週8休)の実現、長時間労働の防止に向けた取り組み
- 事業量に見合った多様な人材の確保・育成: 職場環境・処遇の改善、女性の活躍推進
- グローバル化の推進: グローバル人事制度の導入、コア人材の発掘・育成・登用
- 技能労働者の確保・育成: 協力会社との連携強化、現場の働き方改革の協働

4. CSR経営の実践 ~ステークホルダー重視の経営

- コーポレート・ガバナンス、リスクマネジメントの不断の改善・充実
- 企業倫理、技術者倫理を含むコンプライアンスの徹底、風通しのよい企業風土の醸成

■ 中期経営計画の目標達成に向けて

中期経営計画では、創業125周年を迎える2021年度を見据えて、臨海部と海外に強みを持つ特徴あるゼネラル・コントラクターとしての足元を固め、緩やかな事業拡大を目指します。また、モノづくり企業として技術に裏打ちされた営業力、現場力、技術力を磨き、請負を極め、やるべき価値のある仕事には必ず挑戦します。さらに、将来の担い手を確保するため、長時間労働の防止や計画的な休日取得等の働き方改革を推進し、週休二日の実現を目指します。そのためには、生産性の向上が不可欠です。ICTの活用による情報化施工、省力化・工業化工法など、技術に裏打ちされた建設生産システム改革を積極的に推進し、生産性の向上とともに、

安全・品質の向上を実現します。常に高い倫理観を持ち、技術を大事にする、風通しの良い企業風土、性別、国籍を問わず、多様な人材が生き生きと働ける環境を築いていきます。

2018年度は、国内土木、国内建築とも手持ち工事の順調な進捗により売上高が増加したことに加え、海外の工事採算の改善により、5期連続で過去最高益を更新することができました。

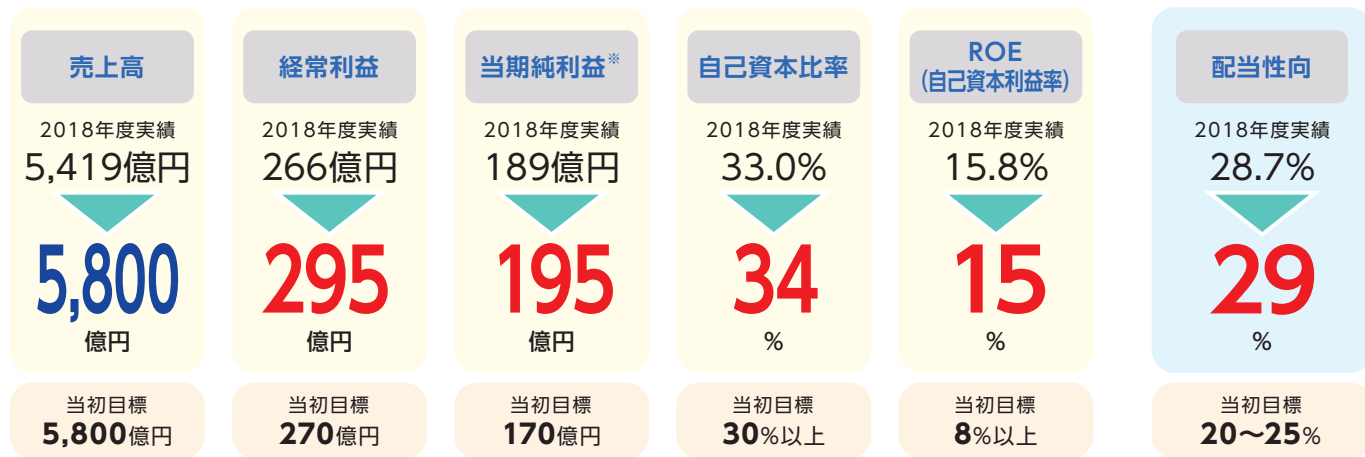
最終年度となる2019年度の目標は、売上高5,800億円(当初計画通り)、当期純利益195億円(当初計画比25億円増)と、6期連続の最高益更新を目指します。

中期経営計画(2017~2019年度)

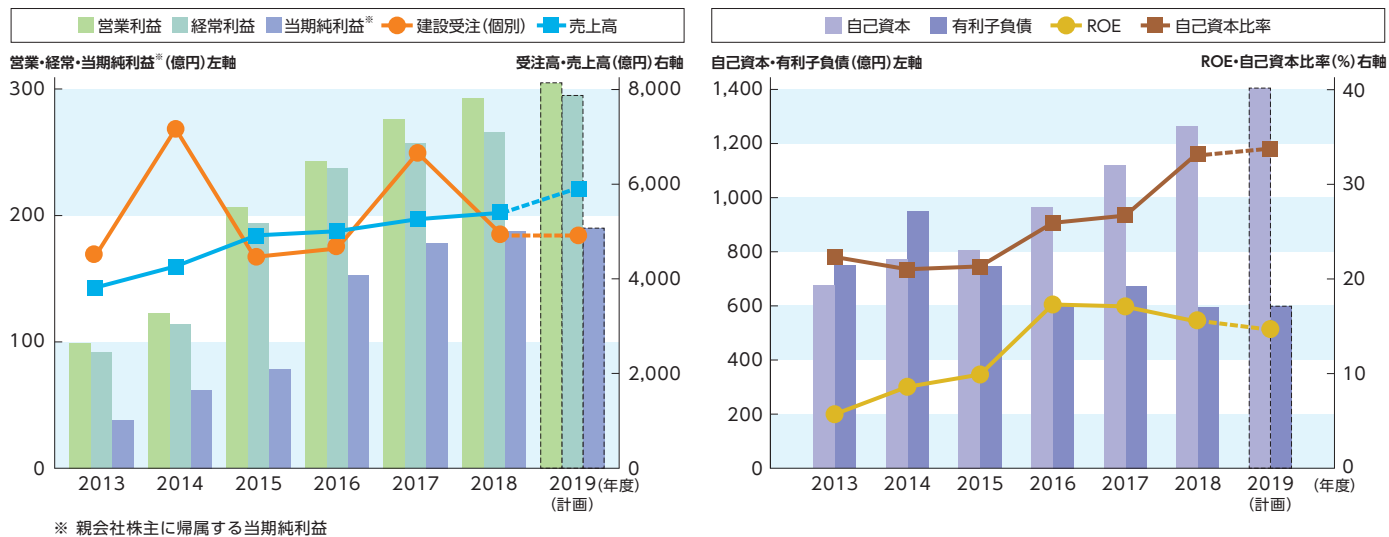
主要経営目標(2019年5月見直し)

■ 主要連結数値目標(2019年度)

■ 株主配当



■ 主要数値の推移(連結)



部門別の目標と基本戦略(個別)

土木部門

2019年度目標

- 受注高 1,800億円
- 売上高 1,900億円
- 完工総利益率 12.1%
- 営業利益 140億円

基本戦略

1. 技術力を最大限に発揮する営業体制の強化
2. 生産性向上による現場力の強化
3. ターゲットを明確にした技術開発
4. 国際部門との連携強化
5. グループの連携強化

建築部門

2019年度目標

- 受注高 1,700億円
- 売上高 2,000億円
- 完工総利益率 7.3%
- 営業利益 85億円

基本戦略

1. 営業基盤の強化
2. 生産性向上による現場力強化
3. ターゲットを明確にした技術開発
4. 開発事業への戦略的取り組み
5. グループの連携強化

国際部門

2019年度目標

- 受注高 1,500億円
- 売上高 1,600億円
- 完工総利益率 4.3%
- 営業利益 50億円

基本戦略

1. 戦略的な営業の推進
2. 現場力、技術力の強化
3. 生産性向上のための取り組み推進
4. 船舶オペレーションの強化
5. さらなるグローバル化・ローカル化の推進